

健康や栄養改善に貢献

味の素と弘大の共同研究講座を開設

弘前大学(福田眞作学長)と味の素(東京都、西井孝明社長)は16日、弘前大学大学院医学研究科に共同研究講座「デジタルニュートリション学講座」を開設したと発表した。高齢化が進展する中で、健康増進や栄養改善への貢献を目指す活動を展開していく。設置期間は4月1日～2025年3月31日の5年間。

味の素は日本を代表する総合食品企業。近年は「食と健康」に着目した活動を展開している。講座開設により、弘大COIの岩木健康増進プロジェクトを中心とした、本県で繰り広げられている健康づくりとの融合が期待される。

共同研究講座では、岩木プロジェクトの健康ビッグデータ解析と、血液中のアミノ酸濃度から健康状態や病気の可能性を評価する

共同研究講座では、岩木プロジェクトの健康ビッグデータ解析と、血液中のアミノ酸濃度から健康状態や病気の可能性を評価する

共同研究講座では、岩木プロジェクトの健康ビッグデータ解析と、血液中のアミノ酸濃度から健康状態や病気の可能性を評価する

味の素は日本を代表する総合食品企業。近年は「食と健康」に着目した活動を展開している。講座開設により、弘大COIの岩木健康増進プロジェクトを中心とした、本県で繰り広げられている健康づくりとの融合が期待される。

共同研究講座では、岩木プロジェクトの健康ビッグデータ解析と、血液中のアミノ酸濃度から健康状態や病気の可能性を評価する

共同研究講座では、岩木プロジェクトの健康ビッグデータ解析と、血液中のアミノ酸濃度から健康状態や病気の可能性を評価する



共同研究講座を開設した味の素の西井社長(左)と弘大の福田学長

共同研究講座では、岩木プロジェクトの健康ビッグデータ解析と、血液中のアミノ酸濃度から健康状態や病気の可能性を評価する

たことに大きな意義と喜びを感じている。弘大COI、岩木健康増進プロジェクトをさらに継続し、発展させていきたい」と述べた。(成田真由美)